

坂井市「イクボス」宣言

生活、仕事両立 38事業所も一体で

坂井市と市内二十八事業所とのトップ計四十人が九日、部下やスタッフの仕事とを宣言した。市による

と、県内では初めてで、国民一体の宣言は全国的にも珍しいという。

同市丸岡町西里丸岡のたかむく古城ホールでの共同宣言式で、坂本憲男市長ら市幹部のほか、各事業所のトップがステージに上がり「イクボスになるとともに、職場内にイクボスを増やすため、積極的に働き掛ける」などと書かれた宣言に署名した。市は社内外に宣言をアピールしてもらおうと、市特産の越前織を使った卓上のぼりと首掛けストラップを作製し、トップらに贈った。

式前のセミナーでNPO法人「ファザリング・ジャパン中国」の福井正樹顧問(左)が「これからの経営戦略としてのイクボス」と題して講演。福井顧問は自らの実践経験を語り「高度成長期と違い、利益は労働時間の長さではなく、効率の良さから生まれる」と指摘。今の若者のやる気は賃金では生まれないとし「働く人の満足度を高めることが大切」と訴え



決意も新たに署名した「坂井市イクボス共同宣言」を手にする坂本憲男市長や市内事業所のトップら—坂井市のたかむく古城ホールで

た。子育て世代の社員五人を抱える鉄工所「長田工業所」の小林輝之社長(四)は「社員の私生活に理解を示すだけでなく、社員とともに利益を上げる体制づくりと人材育成の大切さを再認識できた」と宣言の意義をかみしめていた。

(中田誠司)